

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 689 号	氏名	岩下 華子
学位審査委員	主 査 山城 哲 副 査 森田 公一 副 査 安田 二郎		
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価</p> <p>ビクトリア湖畔地域において、マラリアを媒介するハマダラカである、<i>Anopheles arabiensis</i>、<i>An. gambiae s. s.</i>、<i>An. funestus s. s.</i> の 3 種に対し、防蚊対策として殺虫剤浸漬蚊帳の使用と家畜にハマダラカを引き付けヒトへの吸血を減らす zooprophylaxis の相乗効果を検証したものであり、目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2 研究手法に関する評価</p> <p>対象地域において無作為に抽出した 104 軒の家屋ごとの蚊帳の使用数、牛、山羊・羊等家畜の保有状況、家族構成員数および他の環境要因が、ハマダラカの数、それらのヒト吸血状況およびマラリア原虫保有状況に与える影響を、ハマダラカ 3 種を総合的に、および種ごとに解析した研究手法は妥当である。</p>			
<p>3 解析・考察の評価</p> <p>蚊帳の使用率が高い研究調査地において、家屋周辺に繫留される牛の数の増加により、<i>An. arabiensis</i> の場合はヒトを吸血源とする傾向が有意に減少し、またハマダラカ全体においてはマラリア原虫保有率が有意に減少した。蚊帳の忌避効果と zooprophylaxis としての家畜の誘引効果を利用したマラリア対策は、特に <i>An. arabiensis</i> に対して有効であることが示唆された。</p>			
<p>以上のように本論文はマラリアを媒介するハマダラカの対策に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			